

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。いつもお読みくださいます。誠にありがとうございます。お陰様で今日、第5号をお届けすることができました。辞書を片手に四苦八苦しながら書き続けて足掛け3年、前号では思いがけず多くの方からメールやお手紙、お電話をいただきました。石の上にも3年、諦めなくてよかったと思っています。これからもどうかよろしくお願い申し上げます。

ある住民の方から、「議員連中は、行政に対して偉そうに『住民への説明が不足している』と言っているが、お前は議員として、住民に十分説明して来たのか」と言われました。的を射たご指摘です。今年は年4回の定例会の後に、まちの課題や行政の取り組みと問題点を報告させていただけるよう努めます。昨年12月定例会では「庁舎等公共施設の最適配置」と「愛荘町の観光物産振興計画」をテーマとして、一般質問を行いました。その概要を報告させていただきました。併せて、2月上旬に全戸配布されます「議会だより」(No.68)や1月末に町ホームページで公開予定の「議会動画配信」もご覧いただければ幸いです。





これで良いのか!?

相変わらず、住民の意見を聴こうとしない頑迷な行政！

● 頑迷(がんめい)とは、かたくなで、ものの道理がわからないこと。考え方に柔軟性がないこと。

「庁舎等公共施設の最適配置」については、9月定例会の一般質問で取り上げ、その経緯を前号で報告させていただいたところ、多くの皆さまから反響がありました。お寄せいただいたご意見を踏まえて、12月定例会で再度「公共施設の最適配置」について、11の質問と2つの提案をし、町長に「住民への回答」としての答弁を求めました。

私の質問・提案と町長の答弁および問題点を報告させていただきます。

できるだけ正確に要約したつもりですが、行政から見て間違い等があれば、遠慮なくご指摘ください。透明性ある議論は大歓迎です。

私の質問Q

町長の答弁A

提案T

および問題点

Q

まちの将来像(グランドデザイン2040)および都市計画マスタープランや立地適正化計画など、関連計画との整合性が取れていない。

A

計画策定担当3課の間で、目指す方針を共有し、情報共有を密にし、連携を取って整合性を取りながら作業を進めている。

担当3課の間に、横串を通して、整合性を確保する機能(組織、人)がない。

Q

「愛の郷」が公民館や町民センターの機能を代替できるとする根拠は何か。

A

公民館を除く各部屋分のスペースは、延床ベースでも愛の郷を改修することで補えるが、詳細な設計業務を行っている訳ではないので、関係する団体等のご意見も踏まえながら、検討していきたい。

公民館や町民センターを壊す前に、利用している関係団体等の意見を聴いて、設計内容を公開すべきである。

Q

秦荘庁舎における取扱業務の具体的内容は何か。

A

現在、秦荘サービス室で取り扱っている業務のほか、「ゴミ関連の申請」「介護保険証や特定健診受診券の再発行」「高齢者通院支援関連の申請」等、住民に身近な業務にも対応できるよう整理中。窓口における高齢者の一次相談にはしっかり対応していきたい。

秦荘庁舎の取扱業務については数の増加だけでなく、愛知川庁舎も含めて、仕事の効率化など質の向上を検討すべきである。

Q

東部地域の活性化との関連はどうか。

A

公共施設の最適配置が、直接、大きな影響を及ぼすとは考えていないが、東部地域においては、農業や自然と共存した町づくりを進めていきたい。

秦荘庁舎の有効活用など、東部地域の活性化につながる最適配置を考えるべきである。

Q

秦荘・愛知川間の移動手段をどう考えるか。

A

今回の最適配置による取組によって、住民の普段の行政利用に変化を生じないので、東部地域と西部地域を結ぶ移動手段の確保は考えていない。支所の取扱業務を現在よりも拡充していくほか、公民館や町民センターを貸館として利用している団体の活動場所は、愛の郷等に確保していく方針であり、移動という視点で見た場合、現状と大きく変わらないが、交通ネットワークの形成はテーマとして持っていきたい。

住民の移動は、行政利用や団体活動に限らず、買い物や診療所への通院、人と人との交流等もある。

Q

なぜ、新保健センターを旧警部交番・旧警察官舎の跡地に建設しないのか。

A

庁舎から新保健センターまでのレイアウトを同一敷地内に整備することとし、住民・福祉・健康推進・子育ての課を横一列に配置でき、住民の使い勝手がよくなるとの考えから、道路を隔てての整備は考えていない。

建設場所については、使い勝手を含めて、広く住民の声を聴いて決定すべきである。

Q

なぜ、地域総合センターを最適配置の対象としないのか。

A

福祉の向上および人権啓発のための住民交流拠点施設であり、その目的達成の活動等のため、個別施設計画において施設の長寿命化に努める。

地域総合センターだけが、福祉の向上および人権啓発のための住民交流拠点施設ではない。

Q

R3年3月実施のパブコメで出された意見をどのように反映したのか。

A

①秦荘庁舎:防災倉庫を2階から1階へ変更、2階部分の大会議室を多目的ルームに、教育委員会執務室をサークル室に変更。団体貸付室の一部変更と、支所勤務職員の福利厚生を考慮して、1階レイアウトを一部変更した。②愛の郷:施設改修とともに敷地内の駐車場整備を行う。③旧警察官舎跡地は、旧愛知川警部交番の隣接地であり、一体的な土地利用が見込めるため取得し活用する。

旧警察官舎跡地については、駐車場としての利用が、取得費用に見合う一体的な土地利用と言えるのか。

Q

建物の耐用年数をどのように理解しているのか。用途変更による長寿命化の可能性を追求しないのか。

A

庁舎等のあり方検討委員会からの答申を尊重しつつ、公共施設の最適配置に取り組んでいるが、全国自治体と同様、原点として総務省試算モデルを活用した総合管理計画がある。公共施設を適切に抑制し、人やソフト事業に予算を充てていけるまちでありたい。

「総務省試算モデル」を隠れ蓑にせず、その内容を明らかにして、整合性を証明すべきである。

Q

広報誌での説明を充実し、住民説明会(昨年7月)での意見への回答を公開すべきである。

A

公共施設最適配置の取組を広く住民に知っていただくため、住民説明会で報告した内容をもとに、広報10月号から毎月掲載している。住民の関心が高いと思われる代表的な質問をピックアップしてQ&Aを掲載している。住民説明会での質問回答はHPで公表し、当日預かった質問については、質問者に直接回答する。また、動画配信により頂いたご意見・ご感想の回答はHPで公開したい。

広報誌による説明は、住民説明会の資料に比べても超簡単で内容に乏しい。住民説明会は公開であるため、参加できなかった住民に対しても、提出された意見をすべて公開すべきである。そもそも、住民のHP閲覧率(年代別・分野別)を把握しているのか。閲覧率不明のまま、HP偏重の情報公開は意味がない。

Q

「愛荘町自治基本条例」に反していないか。

A

「庁舎等のあり方検討委員会」(R2.2)を立ち上げ、議論を重ねて答申をいただいた後、町の方針をまとめた。イラストも交えた親しみやすい資料を全戸配布し(R3.2)、町民からご意見を伺い、反映にも努めてきた。小学校区ごとに説明会を開催(R4.7)し、町の計画・構想を説明した。さらに町HPや広報誌、動画による町長メッセージの発信など、町民との情報共有にも努めている。自治基本条例に反するとの指摘は当たらない。

情報の共有(条例第6条)について、行政はいつも、やったことだけ強調するが、それで十分なのか、住民が理解できたかを検証しないのか。

T

謙虚に計画を見直してはどうか。

A

当初から「より一体感のある持続可能な町」「人、すなわちソフト事業に予算を充てられる町」でありたいと発信してきた。7月の住民説明会開催の趣旨は、20年後、30年後の町を説明することではなく、最適配置に係る町の計画・構想を伝えることであった。関連計画との整合性も図っており、計画の内容変更等は考えていない。

最適配置の計画・構想の前提である「20年後、30年後の町の姿を説明することが、住民説明会の趣旨ではない」という感覚では、住民の理解も納得も得られるはずがない。

T

52自治会ごとに意見交換会を開催してはどうか。

A

住民説明会を小学校区単位で開催し、丁寧な説明を心がけてきた。住民説明会は、近隣自治体でも小学校区や町全体をエリア分けした単位で開催している。現時点で自治会ごとの説明会等は考えていない。住民のご意見をすべて計画に盛り込むことは難しいが、議員とともに町の未来のために取り組んでいく。

近隣自治体の都合のよい事例を挙げても、自らの正当性を説明することにはならない。愛知川区では、町長をお招きして、住民との意見交換会を開催する予定。

実効性ある計画策定と「身の丈に合った、無理しない」観光を！



まず、愛荘町の「観光物産振興計画」について、H27年5月とR2年3月に策定された2つの計画書を読み込み、滋賀県観光振興局の各種資料と突き合わせたうえで、観光入込客数および観光消費額の推計根拠、成果指標の設定状況、達成状況の評価基準を尋ねました。

商工観光課の答弁によりますと、観光入込客数と観光消費額は下表のとおりですが、4年以上前のH30年に実施した「愛荘町観光意識調査」を除けば、愛荘町の基礎データがないため、滋賀県や近隣町のデータを基に推計していることが分かりました。滋賀県のデータは、県内全域30地点を対象にした観光客の実態調査をベースに作成されていますが、その30地点に愛荘町の観光スポットは1か所も含まれていません。愛荘町の実態が含まれていないデータを使っている確かな計画を立てることはできません。計画の達成状況についても、具体的な成果指標が設定されていないため、主観によるところが大きいと認めました。

次に、「観光振興に関する町の考え方」について、質問しました。

町長は、①愛荘町に訪れていただけるよう観光施策を立案

し、交流人口を増やし、稼ぐ力を成長させるとともに、住民の観光のまちづくりの機運醸成等により、まちの活性化を図りたい。②観光振興は、まず、住民が地域資源を楽しみ、素晴らしと感じ、プライドを持つことが重要で、そのことで、町外の方も心を動かされ、町への来訪にもつながると夢のような建前論を言うだけで、具体策を示すことはありませんでした。全国には、愛荘町が宝（強み）としている自然景観、伝統工芸・農業、歴史・文化遺産を超える一流の観光資源が数多くあります。中山道や金剛輪寺を核とした従来の観光施策が何十年もの間、結果を出せていないということは、今までの施策に無理があったということです。

観光は、貯蔵も輸送も機械化もできない、人間にしかできない「おもてなし」であり、もともと生産性は低く、観光産業で稼ぐことは難しいと言われている。観光物産振興計画には「絵空事ではなく」という文言があります。

愛荘町の観光が目指すべきものを、経済の活性化や町財政への寄与などの「経済効果」から、地域の暮らし・文化・歴史・環境を守る「非経済効果」へと転換して、生産、加工、販売、教育、福祉、脱炭素など、東部地域の活性化とともに、誰もがいきいきと地域で暮らし、ともに働き、ともに活動する共生社会づくりに繋げることを提案しました。

愛荘町の観光入込客数と観光消費額

年	観光入込客数		観光消費額	
	客数(人)	前年比(%)	金額(千円)	前年比(%)
2018 (H30) 実績	405,000	115.5	247,066	(前年実績不明)
2019 (R1) //	386,800	95.5	235,964	95.5
2020 (R2) //	236,000	61.0	143,970	61.0
2021 (R3) //	244,763	103.7	149,315	103.7
2022 (R4) 推計値	254,000	103.8	155,000	103.8
2024 (R6) 目標値	446,000	(対18年比) 110.1%	271,773	(同) 110.0%

「二兎を追う者は一兎をも得ず」です。今こそ時代の潮流を見極め、的確な方針と客観的なデータに基づいた計画によって、「身の丈に合った、無理しない」観光を目指すべきです。

私の力不足のため、どちらのテーマについても行政から前向きな答弁も行動も引き出せないまま、時間切れとなってしまいました。

反省と決意

成果なき一般質問は、単なるパフォーマンスに過ぎない！



成果なき一般質問は、単なるパフォーマンスに過ぎません。諦めることなく、もつともつと勉強して、行政から前向きで、具体的な行動を引き出す活動を粘り強く続けて参ります。

勉強して、行政から前向きで、具体的な行動を引き出す活動を粘り強く続けて参ります。

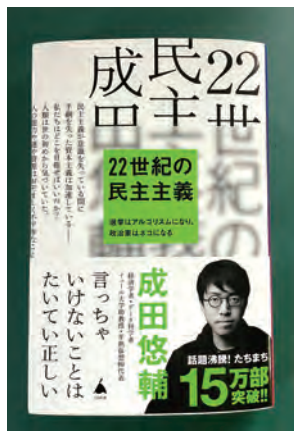
たかしの「言」

「22世紀の民主主義」（成田悠輔著、SB新書）を読みました。著者は、最近テレビでよく見かける1986年生まれの36歳、新進気鋭の経済学者・起業家・データ科学者です。常に書かれています「言っちゃいけないことは、たいてい正しい」というフレーズに惹かれて買いました。著者の持論は「政治家は人間でなくてもよい」です。①「間接代議民主主義」において、政治家が担っている役割は2つある。一つは、どういう政策を進めるかの意思決定をし、行政機関を使って実行していくという「調整者・実行者」としての役割。もう一つは、人の前に出て、ある種のタレントとして活動し、何かが起きたときには世論のガス抜きをする「アイドル・マスコット・サンドバッグ」としての役割だ。②22世紀に向けて、前者はソフトウェアやコンピュータ・プログラムに置き換えられ、後者はネコやゴキブリ、VTuber (Virtual YouTuber) やインフルエンサー

のような仮想人に置き換えられていく。③そもそも、現在のうちに複雑すぎる社会では、政治家があらゆる課題を理解して適切な判断を下すことには無理がある。数十年先の社会に影響を与える政策に、結果が出る頃には多分亡くなっているような政治家は一体どんな責任を取れるのだろうか？

「政治家は人間でなくてもよい」とは、私のような政治家の端くれにとっても大変失礼な「言ってはいけない」ことではあります。人間でなければできない細やかで優しい心を持って、毎日の議員活動をしているかとわが身を振り返ったとき、残念ながら「正しい」面もあると認めざるを得ません。

これから、人間ならではの「情熱」を持って、「正々堂々、真つ向勝負」して参ります。どうか本年も温かいご支援と厳しいご叱正をお寄せくださるよう、心からお願い申し上げます。



ご意見・ご感想・ご要望はこちらまで

UD FONT

見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

もりの隆を育てる会

愛知郡愛荘町愛知川 744-1

TEL : 0749-42-6074 FAX : 0749-42-5574 携帯 090-3355-4319 • takashi0705@icloud.com



ご意見はこちらから